

天念寺 古代への賛歌

天念寺ほど周囲の環境と融合できている構造物は他にありません。天念時は、文字通り岩に建てられました。平安時代（794 年から 1185 年）に建立されてから数百年もの間、修験道の中心地でありました。修験道とは、修行僧が悟りを求めて厳しい修練を行う宗教です。修行僧が守っていた厳格な戒律は、修行により僧侶が険しい丘陵を行き来していた道の遺産であることは明らかです。修行僧の修行療法を何かしら経験してみたい健康的な人は、山の尾根に向けて、険しい道を登ることができます。そこからは寺院を見渡せます。単に何があるのかちらっと見てみたい人は、尾根の頂上を見上げることもできます。そこには、2 つの岩の頂きの間に、石橋のアーチが低い裂け目を覆うように掛かっています。道路を渡ると、不動明王を刻む仏像が、川の真ん中にある巨石の表面からこちらを見渡しています。

共有する精神性 神仏習合

寺院（左方向にある）は、神社（右方向の鳥居の後ろにある）とスペースを共有しています。

これは、神仏習合、または神道との習合の典型的な例となっています。これは日本固有の精霊信仰を起源とする宗教であり、仏教でもあります。学者の説によると、神仏習合は、豊後高田市の西部にある宇佐神宮で始まったとされています。2 つの宗教が、実際に取り入れられることはありませんが、政府が明治時代（1868 年から 1912 年）に 2 つの宗教を分離しようと試みるまで、数百年の間なんとか共存していました。国の大部分の地域とは対照的に、国東半島は、大半の政府の試みを回避できました。天念寺は、この地域に今も点在する神仏習合における多くの例のうち、最高傑作の 1 つです。

鬼の祭り 修正鬼会

寺院と神社の構成は、宗教における歴史的な共存と説明する一方で、威勢の良い伝統的な祭りには、その概念が生きています。祭りは、旧暦の 1 月 7 日に（大抵 2 月）開催されます。行事は、谷中にエコーするホウ貝の合図に、参加者が応答する形で始まります。神社の前を流れる冷たい溪流で

身を清めます。巨大な松明に火がともされて、一行によってお寺に運ばれます。一行は、建物の石製の基礎部分に松明を叩きつけて、競い合い、火の粉を飛ばします。

原始的な仮面と中心行事

活気に満ちた中心行事では、鬼の仮面を被った 2 人がペアとなり、日本古代の鬼となって、ぐるぐる周りながら、飛び跳ねて踊り、燃える松明を使い、歓喜にわく観衆に火の粉を叩きつけます。この鬼は獰猛な外見をしていますが、仏の化身であることから、鬼を追い払うために招き入れられます。火の粉に触れた幸運な者には、幸運と繁栄をもたらされます。最高潮に達すると、信者は自らの体を照明用の松明で打つように申し出ます。

神は情け深いにちがいありません。数百年もの間、炎や火災からこの古い木造建築物を守っているのです。（祭りに参加できない人のために、近くの歴史博物館に解説ビデオがあるので、雰囲気をつかめます）。